

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第33回中央研修会について
- 3◎研修委員会//調査研究委員会//認定委員会
- 4◎学会誌作成委員会//広報委員会—栃木大会取材日記—
- 5◎ガイダンスカウンセラー関連情報
- 6◎支部のキラリ
- 7◎【千葉県支部】—支部活動報告—
- 8◎第34回栃木大会報告
- 9◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第69号

巻頭言

「コロナ時代」の子どもたち と対話的、共感的な関係を

2021年夏から調査研究委員長を務めさせていただきます金子恵美子です。調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」について、教育相談コーディネーターに着目して研究を進めていますが、その中で検討しようとしていることの1つに「教育相談コーディネーターに必要な研修とは」ということがあります。

私自身、ここ数年、積極的にさまざまな研修を受けるようにしているのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、相談やカウンセリングの研修でもオンラインによるものが増えました。オンライン研修は、移動を考えずに参加できることもあり、参加しやすくなった一方で、講師の雰囲気、場の空気感からメッセージを感じとることは難しく、参加者同士が交流しづらいという面もあります。私は本学会に入会后、ずっと地元の群馬県支部でお世話になっていますが、支部の研修会に参加すると、カウンセリングの理論や技法、事例への対応などについて学べるのはもちろんなのですが、ディスカッションやロールプレイに他の先生方と一緒に取り組み、話をする中で元気をいただくことも多く、いつも前向



調査研究委員長 金子 恵美子

きな気持ちになって帰ります。このことは、同じメンバーで一定期間取り組むタイプの研修でも感じられることで、お互いの状況や成長を感じながら支え合えることは、研修の大事な要素であると感じています。また、研修には知識や技法を学ぶものもありますが、私が臨床心理について教えていただいた先生からよく言われたのは「自分に取り組む」ということで、自分の課題を意識化し、それに取り組んでいくことで、自分がより安定し、来談された方にもしっかり関わられるようになることを実感しています。

これからも多くの研修に参加して研鑽を積みながら、調査研究委員会では「教育相談コーディネーターに必要な研修とは」についても明らかにしていきたいと思っています。

★第33回中央研修会について

仕組み、そしてチーム学校の形成へ〜
講師：山野隼子先生（大阪公立大学）

第33回中央研修会を令和5年（2023年）1月8日（日）にZoomによるオンラインで行います。今回の中央研修会は、午前に「パネルディスカッション」、午後に「コース別研修」として4講座を実施いたします。それが終了してから、中央研修会に参加された皆様の交流会を企画しております。

内容につきましては、現在検討しているところもありますが、おおよそ次のとおりです。

「パネルディスカッション」(9:30~12:00)

テーマ「改訂生徒指導提要にみるこれからの学校教育相談」

生徒指導提要が12年ぶりに改訂されます。生徒指導提要は、生徒指導の実践に際し、教員間や学校間で教職員の共通理解を図り、組織的・体系的な生徒指導の取り組みを進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員に向けた基本書です。小学校段階から高校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、時代の変化に即して網羅的にまとめたものです。

今回のパネルディスカッションでは、生徒指導提要協力者会議委員を務められた先生を含め、4人のパネラーにご参加いただきます。今回の改訂生徒指導提要が前回（2010年3月）と比べてどのように変化したのかを踏まえ、4人のパネラーそれぞれのお立場から提要をどのように活用していくか、また活用していくためのポイント等についてディスカッションしていただきます。

「コース別研修」(13:00~16:00)

Aコース「遠隔心理支援（テレサイコロジー）の現状と課題」

講師：杉原保史先生（京都大学）

Bコース「教室マルトリートメント」

講師：川上康則先生

（東京都立矢口特別支援学校）

Cコース「教育相談に活かす援助要請に焦点を当てたカウンセリングー相談できる力を育てる学校環境の在り方ー」

講師：本田真大先生（北海道教育大学）

Dコース「子どもの気になる課題の発見から支援までの仕組みづくりー誰一人取り残さない

「交流会」(16:30~17:30)

いくつかのグループに分かれていただき、あるテーマに沿って意見交換をすることで交流を深めたいと思います。

前回第32回中央研修会では、「コース別講座」を6講座行いました。このままでは、夏季ワークショップと同様で、中央研修会としての体をなさないのではないかとの反省に立って、上記の内容を実施することとなりました。いずれも最新の課題を取り上げた内容となっていますので、研鑽を深める場にしていただければと考えています。研修委員一同、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお、具体的な内容につきましては、学会ホームページ、10月に発行される中央研修会案内でご確認ください。今回の研修が、皆様の教育活動や相談活動にお役に立ちますことを願いつつ、ご案内申し上げます。

（文責：研修委員長 向江 幸洋）



★研修委員会

第34回研究大会（栃木大会）に先立ち、8月6日（土）にZoomによるオンラインで第23回夏季ワークショップを開催いたしました。内容は、次のとおりです。

(1)午前の部（9:00～12:00）

Aコース 「学校の異文化理解から『声にならない声』を聴く」

講師：結城 恵先生（群馬大学）

Bコース 「今、求められる学習指導 ～固に感じた学びの保障～」

講師：篠ヶ谷圭太先生（日本大学）

Cコース 「コロナ禍を機に児童青年精神科医療現場や巡回相談から見えてきたもの」

講師：新井慎一先生

（尾山台すくすくクリニック）

(2)午後の部（13:00～16:00）

Dコース 「これからの不登校支援 ～コロナ禍、GIGA スクールを越えて～」

講師：伊藤亜矢子先生（聖学院大学）

Eコース 「心を育てるグループワーク
～楽しむことから始めよう～」

講師：正保春彦先生（茨城大学）

Fコース 「研究デザイン及びリサーチクエストの検討 ―論文作成の基礎的ルールと基本構成―」

講師：中村 豊先生（東京理科大学）

延べ230名を超える参加者を得て、盛況裡に終わることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、研修委員会では現在第33回中央研修会の準備を進めています。令和5年（2023年）1月8日（日）にZoomによるオンラインで開催いたします。概略につきましては、別掲「中央研修会のご案内」をご覧ください。

（文責：研修委員長 向江 幸洋）



★調査研究委員会

調査研究委員会では、2021年度から、「学校における教育相談のあり方」について、①教育相談コーディネーターの業務と学校の体制づくり、②教員に求められる教育相談活動におけるスキルや対応の2点に着目し、調査研究に取り組んでいます。

2022年4～5月に、各地域の教育相談コーディネーターの配置状況、コーディネーターが担っている役割、求められる資質や研修などについて、各支部の代表の方にアンケートへのご協力をお願いしました。ご協力くださいました各支部の代表の先生方、誠にありがとうございました。アンケート結果の詳細は、今後の総会や学会誌等においてご報告したいと思います。教育相談コーディネーターが他の役割ほど十分に位置づけられていない、役割が見えにくい、どこまで機能しているのかが不透明といった意見が多く見られました。そうした状況の背景には、管理職や行政の理解や認識、教職員の理解や価値観、校内における教育相談への意識や位置づけ、特別支援教育コーディネーターとの差異、外部に任せようという意識、予算の問題、人材や人員の不足、体系的な研修の不足など、さまざまな課題があることがあげられていました。今後、さらにインタビューやアンケートによる調査を重ね、学校で教育相談体制づくりを進めていく際の課題について検討していきたいと考えています。

（文責：調査研究委員長 金子 恵美子）

★認定委員会

○令和4年度からの新規事業について

本年度から認定委員会の新規事業として、新しく学校カウンセラーの資格を取得された皆様を対象にした「学校カウンセラー事例研究会・情報交換会」を実施いたします。

本事業の目的は、新規資格取得者が事例を通して互いに学び合い力量を向上させる場とするとともに、日頃の実践や思いを共有し支え合いの場とすることです。

また、資格更新時の更新ポイント（相談研究2ポイント）が認められます。

本年度は、令和2年度、3年度に学校カウンセラーを取得された皆様を対象として、11月20日（日）10:00～12:00 オンラインで実施する予定です。

対象の皆様には既に案内を送付させていただいております。10月31日(月)迄が申込み期限ですので、まだの方はどうぞお気軽に御参加をお願いいたします。

○今年度の学校カウンセラー資格更新対象者について

前会報(68号)でもお知らせしたところですが、今年度の更新対象者は登録証明書(カード)有効期限2022年3月31日の皆様です。既に更新申請案内を対象の皆様へ郵送させていただいておりますが、学会ホームページからもダウンロードできますので御活用ください。受付期限は12月1日(木)です。どうぞ奮って申請をお願いいたします。

更新ポイントの数え方など申請に際し、お困りのことや疑問点があれば、遠慮なく案内に記載しておりますところへお問い合わせをお願いします。諸事情で今年度の更新が難しい場合は更新延期も可能ですので同様に御連絡をお願いします。満70歳以上の方で更新回数3回目以上の方は、申請上の優遇措置がありますので、案内を御確認ください。

(文責:認定委員長 築瀬のり子)

★学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、日頃より学会誌作成委員会の活動にご理解とご支援を賜りありがとうございます。

学会誌への投稿論文の審査は、10名の委員のほか審査協力委員として多くの方にご協力いただいております。協力委員のお名前は、学会誌の巻末に掲載しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

学会誌『学校教育相談研究』への投稿は、毎年8月末(8月の全国大会での発表者は10月末)が締切となっています。今後、第33号の発行に向けて、投稿された論文の審査を進めてまいります。

さて、会報68号でお知らせしましたが、新企画として「論文作成連続講座」を開催します。第1回が令和5年1月7日(土)、第2回が2月5日(日)、第3回が3月5日(日)で、いずれも13時から17時まで行います。講座は3日間ともZoomによるオンラインで実施します。参加者を3グループに分け、各グループ1名の講師によるゼミ形式で

論文をブラッシュアップしていく予定です。定員を先着9名としていますので、学会誌への投稿を考慮しておられる方はできるだけ早めにお申し込みください。ただし、第1～3回のすべて参加できることが必要です。また、受講された方の投稿論文は他の方の論文と同様の審査を経ますので、審査において優遇されることはないこともご承知ください。詳細は、同封の『令和4年度「論文作成連続講座」開催のご案内』をご覧ください。

(文責:学会誌作成委員長 藤井 和郎)

★広報委員会—栃木大会取材日記—

今回、広報委員会では、日本学校教育相談学会 第34回総会・研究大会 栃木大会の運営の様子を取材させていただきました。普段の大会報告を「表」としますと、ここでの大会報告は「裏」と言いますか、なかなか見えない部分、大会運営を裏方として支えていただいている部分に焦点を当てた報告をさせていただきます。

まず、本部会場に到着し、大会運営にかける“熱気”を感じました。笑顔での会話もありながら、緊張感が漂っていました。オンライン開催のため、事前準備を綿密にされてきたようですが、それでも「本当にスムーズに進行できるのか？」という不安が漂う雰囲気を感じました。

そんな中、オンラインでの総会が始まりました。会長も議長も別会場、うまく繋がるように工夫・準備されてきた甲斐あり、スムーズな進行であったように感じました。午後は、たくさんの自主シンポジウムが同時進行でありました。緊張感はマックスでしたが、こちらも問題なく無事スタートでき、本部会場にも少し安堵感が流れているように感じました。もちろん最後まで気は抜けませんが、大変だった準備作業が報われた一瞬だったようです。

午後少し時間をいただき、栃木県支部の方にインタビューさせていただきました。大会運営で苦労したことは、年度毎の必要経費の違いだと聞きました。具体的には、会場の賃貸料・PC等のレンタル料・システムエンジニアの手配などです。年度毎に必要な経費は異なるが、学会本部からの運営補助金は一律であるため、自主財源をどこから得るかが大きな課

題であるとのことでした。また、今大会での運営に携わっていただいた人数をお伺いしたところ、実行委員で約20名、その他補助委員として10数名とお聞きしました。自主財源や運営人数を考えると、支部負担が大きく、大会運営の引き受け手が限られていってしまわないかという危惧を感じました。支部の負担軽減という点で、合同開催も考えましたが、運営委員が複数支部にまたがることになるので、打ち合わせ等は大変になると予想されます。実際に大会運営されてきた方の話には、現実味があり、切実な課題があると感じました。

さらに、本学会の今後についての話も聞かせていただきました。栃木県支部がということだけでなく、全体的に学会の構成年齢層が高くなっている。若年層の会員数が少ない現状の打開策を、もっと本腰を入れて考えていかないといけないだろう。大会運営を通じて、大学にも話を伺う機会があったが、大学生への本学会の周知など図れないかとの意見をいただきました。

普段、見ることのない大会運営の「裏」少しは感じていただけたでしょうか。様々な意見、今後に活かしたいものです。



(文責：広報委員会)

★ガイダンスカウンセラー関連情報

今後の研修会、資格更新の情報をお知らせ致します。

1. ガイダンスカウンセラー・スーパーバイザー申請のための研修

ガイダンスカウンセラー資格を有して10年以上になる方は(2011年、2012年に登録された方)、「スーパービジョン研修」を受講することにより、ガイダンスカウンセラー・スーパーバイザーの申請が可能です。(1回目は7月18日に終了しました。)

スーパービジョン研修会は、事前の講義(オンデマンド動画)視聴と体験講座(Zoom)のA、Bどちらかを選択しての参加で構成されます。

【第2回目 体験講座】2022年9月23日
(金・祝)

A: 10:00~11:10 B: 12:30~13:40

【第3回目 体験講座】2022年10月23日
(日)

A: 10:00~11:10 B: 12:30~13:40

対象 2011年、2012年に登録されたガイダンスカウンセラー

参加費 3,000円

申込 [http://jsca.guide/training/
jsca220718_gcsv.html](http://jsca.guide/training/jsca220718_gcsv.html)

2. ガイダンスカウンセラー資格更新に関するお知らせ

本年度の資格更新対象者である、2012年度認定の方(認定番号が12で始まる方)に、7月初旬に資格更新に関する書類を郵送しました。

10月3日(月)から12月5日(月)の受付期間に、更新のお手続きをいただきたく、何卒お願い申し上げます。

〔更新申請書はHPからも取得できます〕

[http://jsca.guide/qualification/
certificated.html](http://jsca.guide/qualification/certificated.html)

〔更新に関するQ&A〕

[http://jsca.guide/qualification/certificated-
faq.html](http://jsca.guide/qualification/certificated-faq.html)

〔不明点や疑問点にお応えします〕

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15

電話 03-3941-8049※平日の10~17時

e-mail : info@jsca.guide

ホームページ : http://jsca.guide

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング
推進協議会理事 学校カウンセラー・
ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)



★第7回支部のキラリ!★

「子どもに寄り添う研修会」 の実践について」

長崎県支部 山田喜典



『子どもに寄り添う研修会』というネーミングが気に入って今日参加しています」

7月2日。長崎県支部で3年ぶりに対面で実施された研修会での参加者からの嬉しい言葉です。

長崎県支部では、2年前のコロナ禍の影響を受ける前までは、年に2回の定例研修会を開催してきました。

今から10年前の学会員になる以前の私は、主に悉皆研修と自分の教職経験等を活かしながら、子どもたちの育成に努めていました。その方針を一言で言うと、「規律を重んじることで、安定した集団を作り、豊かな協調性を育てる教育です。」当時は、それはそれで、それなりに手応えを感じていたのですが、個々人の様々な考えを引き出しながら、主体的に活動する場をなかなか創り出せず、「個性を生かし、育てる教育」と相反してはいないまでも、接点が少ないことを感じていました。

また時代的にも、特にこの10年余りは、心が疲弊している子どもたちが増えているのを実感します。症状が認められない場合でも、自己肯定感や自尊感情が外国に比べて低く(我が国と諸外国の若者の意識に関する調査：内閣府)、同調圧力の中で、自分の意思を告げる機会を選択せず、傍観者であったり、その存在に矛盾を感じなかったりする場合も少なくありません。その近未来は、今の成人の姿にも重なります。

これまでの支部研修会では、子どもたちを育てるという目的の実現の為に、理解や支援をどのように行うと効果的かという理論的な学びをすることができています。

理論の学びは、学校教育相談の普及と活用に確実に貢献していますし、さらに、理論研修で学んだカウンセリング的な視点は、俯瞰的なものの見方にもつながり、私の関わる子どもたちや現場の先生たちに対してもより良い影響を与えていると自負しています。

「武道で言えば、講義が“型(かた)”を学ぶ機会とすれば、事例研は、その“型”を自分の得意技にするための“乱取り”ではないか。両方ともレベルをあげるための練習が欠かせない。(長崎県支部 松永博幸理事長談)」

この熱い想いの意向もあり、今から4年前に自主研修としてスタートしたのが、「子どもに寄り添う研修会」です。

1年間に3回の研修を、学会の会員を中心に7名のメンバーで行いました。現職の校長、適応指導教室を設置する少年センター主事、スクールカウンセラー等様々な職種です。

1回の研修会は約2時間。立場が違うそれぞれの先生方に、実際に取り組んでいる(いた)事例を、持ち回りで紹介してもらい、忌憚のない意見を出し合いながら、じっくりと研修を深めていきます。

該当する子どもを受け持つ担任の先生への効果的な支援をどうするか。あるいは、校長の立場で保護者や子どもへ、どの様に対応するべきか。さらにはチーム学校のカウンセラーとしての立場から、支援方法やその支援分野に対する提案など、内容も大変充実したものになりました。

数回目の研修会を実施している場面で、ふと「この熱心な話し合いの場を、該当する子どもとその保護者に、マジックミラー越しに隣の部屋から観察してもらったら、学校への理解が一度に進むのにな…」と感じた事がありました。私の実践するオーブンダイアログ的な面談実践への大きなヒントになった瞬間でもあります。

提供された事例に対する面談の実際を、ロールプレイすることも、現役のスクールカウンセラーがメンバーにいて出来ることです。「理論を踏まえての実践の実現」これが「子どもに寄り添う研修会」です。

このような実践事例の検証を経て、「子どもに寄

り添う研修会」は、昨年度から長崎県支部の定例研修としてスタートすることになりました。

長崎県支部の研修会でも学校スケジュールに合わせて、学期に1回ずつで年間3回の研修を設定しました(時間は3時間)。残念ながら、昨年度はコロナ禍による施設利用の停止等で広く参加呼びかけが出来ませんでした。本年度は長崎県支部のホームページが立ち上がったことから、学会員を中心に周知がより可能になり、充実した研修会になりました。長崎県は離島が多く、研修会場への移動もハンディーがありますが、その離島から熱心に参加された先生の冒頭の言葉だったので、無事に対面研修会が実施できた喜びは実に大きかったものです。

当日の参加者は22名。職種は小学校、中学校の教諭と管理職、高等学校の管理職、特別支援学校教諭、就労継続事業所、PTA 連合会事務局、スクールカウンセラーと実に多彩な顔ぶれの方々に集まっていたいただきました。

詳細については紹介できませんが、お二人の先生からの事例提供を受けて、それぞれの立場から、現段階で可能な効果的支援や将来的な就労に関する情報まで出てくる大変収穫の多い研修会になりました。

これからも、理論と実践から数多くのカウンセリング的な引き出しを作り、「子どもに寄り添う大人たち」を目指したいものです。

(担当：小川 正人)



【千葉県支部】一支部活動報告

現在、千葉県支部は毎年6月に総会を行い、その際に年度の最初の研修会も実施しています。ちなみに今年は、6月12日(日)にオンラインで実施しました。内容は「子どもたちの命を守るために 私たちにできること」という演題で、中央大学人文科学研究 客員研究員 高橋総美 氏にお話ししました。

年度内2回目の研修会は10月前後に実施しており、今年は9月11日(日)にオンラインで、「こころの病気のある児童生徒等の教育支援について」というテーマで 国立特別支援教育総合研究所総括研究員 大崎博史 氏を講師に実施しました。

また、翌年2月に研究発表会を開催し、会員の日頃の実践研究を公開しています。その際にも研修会を実施しており、今年度は演題未定ですが、千葉大学名誉教授 保坂 亨 氏を講師に対面での研修(会場：東京情報大学)を予定しています。



これらの研修会並びに研究発表会は、現在、日本学校心理士会千葉支部との共催で行っています。今後は、各研修をスクールカウンセリング推進協議会の研修としても活用していけるように調整中です。これによって、各研修会への参加者増と会員の負担軽減を同時に図っていきたいと考えています。

さらに千葉県内を教育事務所ごとに5つのブロックに分け、研修活動等の活性化を図っています。日々の研究活動の成果は、合同の機関誌『学校教育臨床研究』に発表できる体制も整えているところです。

現在はコロナ禍で休眠状態ですが、従来実施してきた台湾など東アジア圏を中心とする海外交流も、時期を見ながら引き続き活発な活動を行っていければと思っています。

(文責：支部理事長 田邊 昭雄)

★第34回栃木大会報告

大会が終わってみると波がすっと引くように、あの賑わいはどこへ行ってしまったのかという感覚が2週間経った今漂っています。

ここでは勝手ながら、私の思いつくままの落書きを書かせてもらいます。

振り返ると最初の実行委員会は令和元年の7月でした。コロナの「コ」の字もなかった今思えばのんびりした空気の中の結成でした。

当初は対面型の大会を目論んでいましたので「まずは3日間の参加者の弁当はどうする〜」などと、安閑とした雰囲気の中でスタートを切りました。よりもよって、早くも大会の盛会を願い、昼食弁当の「試食会」を実行委員会結成のこの日に行ってしまうという笑い話のようなことが起きたのです。大会メイン会場の栃木県教育会館に隣接する栃木県青年会館（愛称コンサーレ）もサブ会場として使用する予定でした。ここにはおしゃれなレストランが併設されています。栃木大会の昼食弁当はこのレストランから注文することも決まっていました。

レストラン仕立ての試食のお弁当は見た目もお味もちよっとよそ行き。和、洋、中の3種からチョイスし、舌鼓を打ちながらのなんとも優雅な実行委員会結成式でした。

その年の秋口だったでしょうか、「中国で感染力の強い不明な疾病が…」というおどろおどろしいマスコミの報道が聞こえてくるようになりました。まさかこれが今日のこのような事態を引き起こすことになろうとはだれが予想していたでしょうか。

そしてこの「疫病」は7波に及び、社会は蝕まれ、私たちの生活は一変し、すべての活動が危うくなっていく様子は皆さんが今お感じになっているとおりです。

令和2年、春早々の2か月間の一斉休校、「2020東京オリンピック」の延期、学会第32回兵庫大会は中止。第33回として令和3年に延期決定。そんな中栃木大会実行委員会は身動きが取れない状態が長く続いていました。

兵庫大会実行委はこの年の冬に対面型から急遽オンライン方式に変更し、第33回大会を開催するという力強い決断をしました。私は驚きとともに向江実行委員長の眼を見据えた気迫のお顔を思い浮かべ、「よし、栃木大会も!!」と心の中で一念発起したのです。

年度初め（令和3年）、休眠状態の栃木大会実行委を改編。支部理事17名全員を新実行委員に任命し再スタートを図ったのです。

栃木大会は兵庫大会をモデルにしました。コロナ禍にあっても私たちは多様な子供たちと一緒に前を向いてこの先の学校生活を共に過ごしていけるきっかけづくりにしよう、そのためにも継続してきた「教育相談を心の砦にしていこう」という思いの大会テーマです。

オンデマンド方式を取り入れ開催期間の短縮を試みました。木村事務局長の的を得た提案もあり、配信は8月8日～17日、8月18日～27日の二部構成。参加者にはできるだけ多くの講演会（受賞者講演、記念講演）、研究発表、自主シンポに触れ、明日からの活動のエネルギーにしてもらえればという思いです。

井上住職の記念講演をオンデマンドで聞いた県内の会員からは「宇都宮に心理と、仏の教えを融合した先進的な活動をしているお坊さんがいるとは自慢できますね」と声をいただき、4時間に及び前副会長藤原先生企画の「日本の学校心理学、教育相談の研究と実践の先駆者であった大野精一先生の追悼」自主シンポジウムは丸ごと一冊の記念誌になりますねと感想を漏らした方もいます。私も拝聴し、現在進行形で先頭に立ち活躍されているそうそうたるメンバーの登場に驚き、故大野精一氏とは一番近いと言われている藤原先生のはばかることなく涙しながらのまとめの言葉には感動しました…。制限字数が迫ったので落書きの筆をいったん置かせて下さい。

さて、栃木大会では全国の学会員の皆さまには本当に本当にお世話になりました。また来年、新潟大会でお会いしましょう！

（文責：栃木大会実行委員長 柴 一彌）



★会長コーナー

栃木大会は、ワークショップ230名、大会205名の参加を得て盛会に開催することができました。柴一彌栃木県支部理事長を初めとする現地の皆さん方に心より感謝申し上げます。大会での文部科学省初等中等教育局児童生徒課長の講演にもありましたが、不登校児童生徒数は、8年増加し続けています。文部科学省(2021)によれば、不登校となった要因は、無気力・不安(46.9%)、生活リズムの乱れ・非行(12%)、友人関係(10.6%)、親子のかかわり方(8.9%)、教職員との関係(1.2%)などとなっています。

一方、学校や教育支援センターに通い始めた小学校6年、中学2年を対象にした「不登校児童生徒の実態調査」(文部科学省、2021)によれば、学校に行きづらいつ感じ始めたきっかけは、先生のこと(小学校30%、中学校28%)、友だちのこと(小学校25%、中学校26%)、身体の不調(小学校27%、中学校33%)となっています。さらに、学校を休んでいる間の気持ちについて、保護者の約半数は、「極度に落ち込んだり悩んだりしていた」と捉えているのに対して、子どもは「ほっとした・楽な気持ちだった」(小学校70%、中学校69%)、「自由な時間が増えてうれしかった」(小学校66%、中学校66%)と回答しています。ここからは、教職員・保護者と不登校の児童生徒の大きな意識のずれを読み取ることができます。不登校の児童生徒の気持ちに寄り添った支援のあり方、教職員・保護者のかかわり方が改めて問い直されているのではないのでしょうか。

(文責：会長 春日井 敏之)

★事務局より

令和4年6月25日(土)の社員総会、8月6日(土)の支部代表者会、翌7日(日)の総会にて、令和3年度の事業報告・令和4年度の事業計画等が承認されました。

学会本部の法人化について、一般社団法人の現状を維持していくことも承認されました。

「会計監査の修正」「事務局幹事の終了」「倫理規定の追記」「大災害発生への対応の新設」の会則改正も

承認されました。

名誉会員に遠山和彦(東京都支部)、第13回学会賞に中村豊(埼玉県支部)、第15回小泉英二記念賞に小笠原淳(岐阜県支部)、以上の方々が推薦・承認・表彰されました。

また、全国ブロック代表理事は以下の方々になりました。

北海道・東北ブロック 小玉 有子(青森県)

北関東・山梨ブロック 内藤 雅人(山梨県)

南関東・新潟ブロック 田邊 昭雄(千葉県)

東海ブロック 蔭山 昌弘(静岡県)

近畿・石川ブロック 山岡 雅博(京都府)

中国・四国ブロック 今西 一仁(高知県)

九州・沖縄ブロック 神山 英輝(沖縄県)

(文責：事務局長 木村 正男)

★編集後記

8月7日、第34回研究会(栃木大会)は前日の夏季ワークショップと同様にオンラインで、また8月8日以降はオンデマンド配信での二部構成で開催されました。光琳寺井上広法住職の記念講演や多くの研究発表から、また新たな刺激をいただくことができました。大会の準備・運営に当たっていただいた栃木県支部の皆様、本当にご苦労様でした。そして、来年度の新潟大会でまた学び会えることを期待しています。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第69号

令和4年10月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 春日井 敏之

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 山本 健治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>